

インドネシア経済の現状について

2012年8月13日

8月6日の発表によると、インドネシアの2012年の4～6月期の実質GDP成長率は前年比+6.4%と好調でした。8月9日のインドネシア中央銀行の金融政策会合では政策金利を5.75%で据え置くことが決定されました。

《6%のGDP成長率が続くインドネシア経済》

8月6日のインドネシア中央統計局の発表によると、インドネシア経済は好調を維持しており、2012年の4～6月期の実質GDP成長率は前年比+6.4%と7四半期連続で6%を上回る成長が続いています。インフラ関連の投資や個人消費が国内景気好調のけん引役です。

8月9日、インドネシア中央銀行は政策金利の引き下げを見送り、5.75%と6カ月連続の据え置きとしました。インドネシアの国内景気は良好ですが、長引く欧州債務問題の影響で、先進国や中国などの景気減速による悪影響が懸念されるため政策金利は据え置かれています。

《今後の見通し》

●景気見通し

今後のインドネシアの景気見通しは良好です。インドネシア中央銀行によると、2012年のGDP成長率は6.1～6.5%、2013年のGDP成長率は6.3～6.7%と6%を上回る成長を予測しています。

欧州債務問題による世界的な景気減速を受けた輸出の鈍化がやや気がかりですが、同国は内需中心の経済構造を有しており、今後も好調な国内景気が持続すると見込まれます。

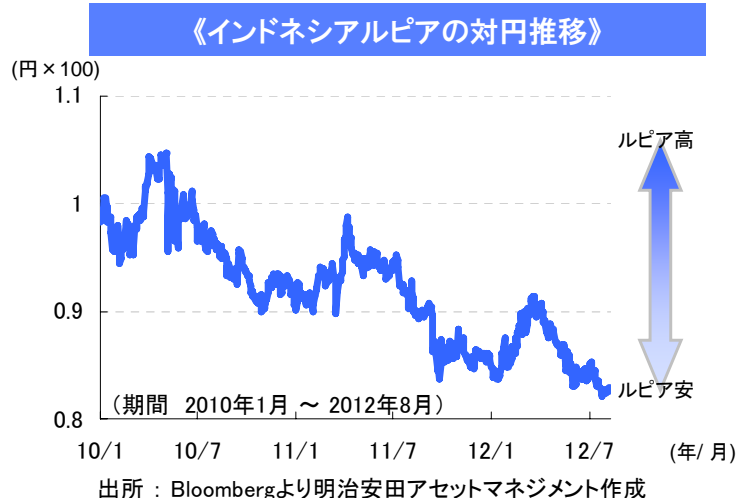
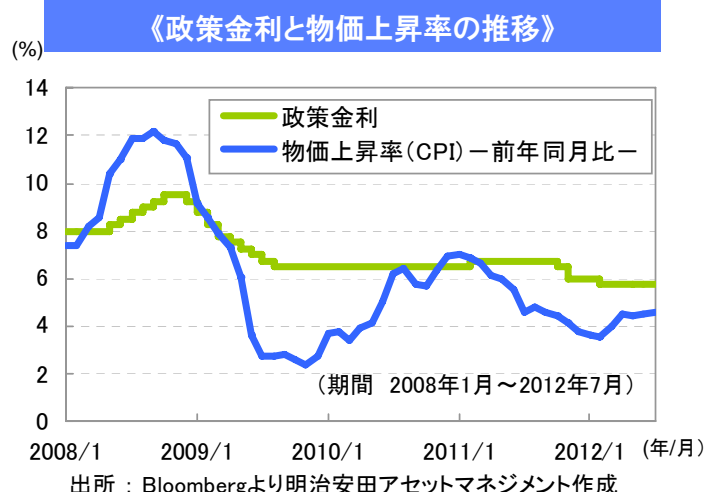
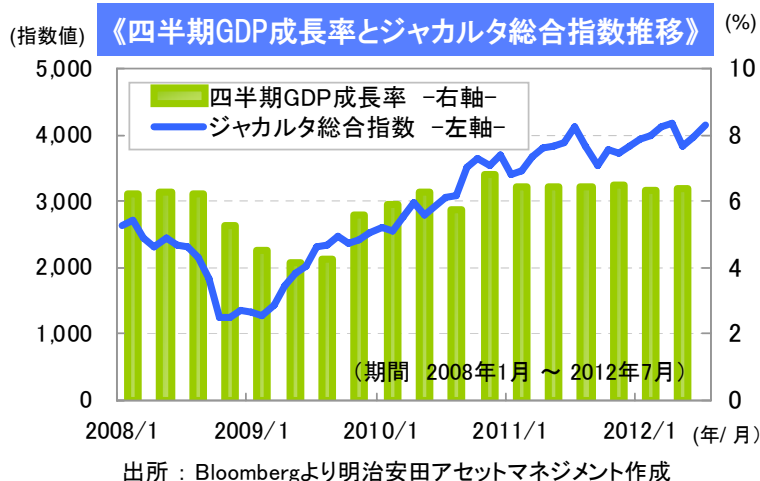
●政策金利見通し

欧州債務問題などの不安要素があることや物価上昇率（インフレ率）が落ち着いていることから、早期に政策金利の引き下げが実施されるとの見方もあります。しかし利下げはルピア安材料となりやすいことから、インドネシア中央銀行は実施には慎重になるとみられ、当面政策金利は据え置かれるとみています。

●為替見通し

インドネシアルピアは、欧州債務問題などの悪影響が懸念され年初来軟調に推移してきました。しかし、足下では下落圧力は徐々に弱まっています。その理由は、投資家のリスク回避姿勢による海外資本の流出が収まりつつあることです。堅調な国内景気を背景とした海外からの証券投資や直接投資に回復の兆しがみられます。

良好な国内景気の継続やインドネシア中央銀行の自国通貨下支えへの期待などから、インドネシアルピアは底堅く推移するとみています。



●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。